

9月3日（月）（2学期始業式）

「無理」と思うのか、「実現するにはどうすればよいのか」を考えるのか

気象庁が連日の暑さを「災害」と言うほど暑い夏でした。9月に入り、まだ遠くからですが、朝夕の風に秋の足音も聞こえるような季節になりました。すでに授業や体育祭の練習は始まっていますが、今日からが2学期です。2学期は暑さの中で始まり、冬の寒さの中で終わります。4か月間におよぶ長い学期のスタートです。持っている時間は皆平等。どう使うのかは自分次第です。4か月後の自分の姿をイメージして、昨日より今日、今日より明日、1学期より2学期、成長していきましょう。それが、今年のキャッチフレーズ「口加リリニューアル宣言」です

さて、8月は高校生のスポーツの全国大会が各地で行われました。陸上部の森北詩音さんが長崎県と北部九州の代表として三重県のインターハイに出場しました。また甲子園では、ちょうど100回目の記念大会として高校野球の熱戦が繰り広げられました。森北さんも、甲子園に出場した選手もマネージャーも、皆と同じ高校生です。甲子園大会の出場校は56校、うち公立高校はわずか8校でした。今、部員のほとんどが野球留学のため県外出身者で、部員数が100名を超える私立高校優位の時代です。その中で決戦まで進んだ秋田県立金足農業高校の活躍は見事でした。全員が地元出身者、また農業高校であるため野菜や家畜の世話など練習時間も限られている中での快挙でした。その他にも1回戦では負けはしましたが、注目を集めた学校があります。福岡の私立高校、折尾愛真高校です。元女子校で、男女共学となった14年前に野球部ができています。当時の部員は女子を含め5人。練習場がないため、公園で練習していたそうです。部員の合言葉は「監督を甲子園に連れていく」。創部15年目での初出場でした。また三重県代表の三重県立白山高校も注目の学校でした。人口約1万人の三重県の山間にある高校です。かつて地元では「行くところがない子供たちが通う学校」と言われていたそうです。つい5年前は部員数わずか5人。2年前まで10年連続県大会初戦敗退の弱小校。グラウンドの草むしりから始め、春夏を通じて初の夢舞台に立ちました。徳島県立池田高校という山間にある県立高校が、高校野球史上、一時代を築きました。甲子園初出場の時の部員数はわずか11名。見事に準優勝を果たしたメンバーは“さわやかイレブン”と呼ばれ、今でも高校野球の語り草となっています。

こんな高校生たちの活躍を見ていると、叶わない夢はないんじゃないかとも思います。サッカー選手の本田圭介選手が、小学校の卒業文集に書いた「将来の夢」という作文があります。

「将来の夢」

ぼくは大人になったら、世界一のサッカー選手になりたい、と言うよりなる。世界一になるには、世界一練習しないとダメだ。だから、今、ぼくはガンバっている。今はヘタだけどガンバって必ず世界一になる。そして、世界一になったら、大金持ちになって親孝行する。Wカップで有名になって、ぼくは外国から呼ばれてヨーロッパのセリエAに入団します。そしてレギュラーになって10番で活躍します。一年間の給料は40億円はほしいです。プーマとけいやくしてスパイクやジャンパーを作り、世界中の人が、このぼくが作っ

たスパイクやジャンパーを買って行ってくれることを夢みている。一方、世界中のみんなが注目し、世界中で一番さわぐ4年に一度のWカップに出場します。セリエAで活躍しているぼくは、日本に帰りミーティングをし10番をもらってチームの看板です。ブラジルと決勝戦をし2対1でブラジルを破りたいです。この得点も兄と力を合わせ、世界の強ゴウをうまくかわし、いいパスをだし合って得点を入れることが、ぼくの夢です。

6年生の時に描いた夢のほとんどが現実になっていることに驚きます。それは本田選手が特別な人だからでしょうか。そうです。特別な人です。しかし、最初から特別ではなく、夢を追い続けることで特別な人になったんです。うちの森北さんにも、甲子園に出場した高校も、本田選手にも共通することがあると思うんです。それは、将来の具体的で鮮明な自分のイメージを持ち、そこからさかのぼって今何をすべきかを考えて具体的に行動、練習、勉強しているという点です。そこには「無理」とか「できない」という疑いは一切なく、「実現するにはどうすればいいか」ということだけを考えている。本田選手は作文に「今はヘタだけど、頑張らば必ず世界一になる」と書いています。「ヘタ」だから「無理」とは考えていないんです。だから夢が叶うし、目標が達成できるんです。

ノミの話をしてします。ノミは自分の大きさの150倍ジャンプできると言います。2ミリの大きさだと30センチぐらいジャンプできるんです。ノミのジャンプ力を人間が持っていれば、30階建てのビルの高さまでジャンプすることができるそうです。そのノミにコップをかぶせます。そうするとノミはコップの高さまでしか跳ぶことはできませんね。しばらくして、コップをどけるとどうなると思いますか。そのノミはもうコップの高さまでしか跳べなくなっているそうです。30センチ跳べるノミがです。何故か、自分はここまでしか跳べないと限界を決めてしまうからです。これ以上跳ぶのは「無理」と自分が思い込むからです。

サーカスの象はたったロープ1本でつながれているだけなのに、何故逃げないのか。それは小さい頃、まだ力が弱い頃からロープ1本で縛り付けておくことで、自分はロープの範囲までしか動けないことを覚え込ませるからだそうです。ロープ1本ぐらい引きちぎって逃げられる力があるのに、そういうことは「できない」と思い込んでいるんです。

結局、私たちは「できる」のに、「無理」「できない」と心にブロックをかけていないだろうか、というのが今日の講話の趣旨です。

〇加高校に通う生徒たちは、高校に入ってから伸びしろは県下一だと言われていました。そして、今も県下一だと思っています。なぜならば、こんな畑に囲まれた田舎の学校の生徒たちが、陸上部は県の高校総体で何度も総合優勝しています。硬式野球部の前身である軟式野球部の時代、全国制覇も成し遂げています。男子バレー部は全国大会の春高バレーにも出場しています。その他、卓球部、バスケット部、放送部、ハンドボール部も県の上位常連校でした。進学の実績も県下屈指。〇加高校というのはすごい学校なんです。これだけ可能性に満ち溢れた生徒たちがいる名門校でありながら、自分で「無理」「できない」と思い込んで、せっかくの可能性にシャッターを下ろしていないだろうか。

長崎大学？ 「合格、無理無理」と思うのか、「合格するにはどうすればいいのか」と考

えるのか。甲子園？「無理無理」と思うのか、「アルプススタンドをこのオレンジ色に染めるにはどうすればいいのか」と考えるのか。一流の看護師？「そんなの無理無理」と考えるのか、「名だたる看護師になるにはどうすればいいのか」と考えるのか。数学？「絶対、無理無理」と考えるのか、「どうやったら微分積分を解けるようになるのか」と考えるのか。

人生は考え方ひとつ。そしてその考え方が行動となり、生き方となり、あなたそのものになっていきます。

8月9日の命の講話では、「人に迷惑をかけないように生きる」のではなく、「人の役に立つ生き方をしよう」と話しました。

6月のいじめ根絶集会では「人と比較して自分はダメだ、劣っていると思うのはやめよう」と話しました。自分は世界に一人しかいない。個性も能力も好き嫌いも皆違う。比較することに意味はない。みかんとリンゴとバナナを比較することに意味がありますか。優劣がありますか。そうではなく「自分はどうありたいのか」を考えよう、と言いました。

そして、今日は「無理」「できない」ではなく、「実現するにはどうすればいいかを考えよう」という話でした。

3年生、高校生活もあと半年、180日です。進路に向かって死に物狂いで努力してください。死に物狂いでやっても人間は死なないんです。2年生、あと1年と半年です。1年生、あと2年と半年。持っている時間は皆平等。どう考え、どう使うかは自分次第です。口加高校、2学期も頑張ろう！！